

2026 年度事業計画

2025 年度は、5 本柱の活動方針を推進し、加盟団体と結束して、すべての患者の救命と QOL の向上を図る活動、ドナー登録と普及啓発を推進する活動をおこなってまいりました。

2026 年度を迎え、今年度も加盟団体と力を結集して、関係機関と連絡を密にして、患者支援、ドナー支援、普及啓発を推進する活動を継続しておこなってまいります。

1. ドナー登録推進と普及啓発活動

(1) ドナー登録推進活動

- ①2025 年度に入りついに減少に転じたドナー登録者現在数を回復させ、さらにドナー登録を拡大するため、理事会主導の「ドナー登録拡大検討プロジェクト」を立ち上げ、加盟団体とも連携して新しい施策を検討します。
- ②都道府県ごとのドナー登録数、人口千人当りにおける登録者数などのデータを基に、その特徴を分析するとともに、ドナー登録増加に成功している具体的な活動内容を調査し、その事例を共有化します。
- ③各地でのライオンズクラブ・青年会議所などの社会奉仕団体との連携状況を調査し、横断的な連携について検討します。
- ④自治体の「骨髓バンク推進連絡協議会」に参加しているボランティア団体から情報共有を受け、円滑な運営が図れている例を共有化します。

(2) オンラインドナー登録導入への協力

2024 年度から、日本骨髓バンクでスワブによる HLA 検査を日本でも運用するための実証実験が開始され、約 2 カ月に亘ったトライアル 3 が 2026 年 3 月 26 日に終了しました。これにより 2026 年度中にオンラインスワブ登録が本格導入される予定です。導入後は告知に協力し、登録現場で混乱が起こらないよう関係機関との連携を図ります。

(3) コミュニケーションの強化

- ①全国各地のボランティア団体、加盟団体同士のコミュニケーションの強化を図り、各地の課題を共有してその改善につなげます。
- ②ブロックセミナーの充実を図り、情報を水平展開します。
- ③ブロックセミナーでの各地の意見を基に、若年層ドナー登録者の拡大を図るためのドナー登録推進活動をおこないます。

(4) 普及啓発活動・情報発信

- ①2026 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京の開催や、事業共催・名義後援等による事業、各種イベント会場において情報発信や啓発をおこないます。
- ②「東京マラソン 2027 チャリティ」及び「東京レガシーハーフマラソン 2026 チャリティ」での広報において、全国協議会をアピールします。
- ③「いのちの輝き展」「あやちゃんの贈り物展」「MAMO のメッセージ展」「わたしががんばったよ展」「患者とドナーのメッセージ展」などを活用した啓発活動を推進します。
- ④啓発活動に活用いただけるよう、啓発グッズを作成、頒布します。
- ⑤機関紙「全国協議会ニュース」を毎月発行し、情報をタイムリーに発信します。
- ⑥ホームページのタイムリーな更新、SNS（Instagram や Facebook）の活用など情報発信を充実させます。

2. 国際協力

国際交流事業として、国内外の医療関係者にチャリティマイレージを利用した航空チケットを提供し、学習や研修の機会の増進に寄与します。

3. 患者・家族の支援活動、ドナー支援

患者の救命とQOLの向上を図り、闘病中や治療終了後の患者・家族に寄り添う活動を継続します。

(1) 「白血病フリーダイヤル」

患者相談を第2、第4土曜日に専門医とともに対応することを継続します。
相談員の拡充とレベル向上を図り、患者・家族のニーズ把握とPRに取り組みます。

(2) 患者支援基金

経済的に困窮している患者への支援や、命をつなぐ意識醸成のため3つの患者支援基金を運営し、助成します。また、経済情勢に合わせ、申請要件の収入上限の引き上げを検討します。

- ①「佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金」移植患者への経済的支援
- ②「志村大輔基金」分子標的治療薬と精子保存への経済的支援
- ③「こうのとりマリーナ基金」未受精卵子保存・生殖補助医療への経済的支援

(3) 患者のQOLの向上

就労に悩む患者の相談を受ける窓口をつくり、両立支援コーディネーターの資格を持つ理事・参与が、患者に寄り添って話を聞き情報を共有し、必要な窓口への橋渡しをおこないます。

(4) 患者の負担を減らす活動

理事会に設置されている「患者負担金軽減プロジェクト」において、治療に伴う医療費を始めとしたドナー室料や造血幹細胞運搬費、ドナー保険や移植後のワクチン接種代など負担となっている費用の実態をあぶり出し、また金銭面だけではなく患者が負担だと感じる物事も調査し、その解決策を検討します。

(5) 医療講演会・患者相談会

医療講演会・患者相談会を加盟団体及び関係団体と共催し、全国の患者へ最新の医療情報を届けます。また、医療に関わる相談会を開催します。

(6) ハンドブック「白血病と言われたら」

ハンドブック「白血病と言われたら」は2025年5月に第7版を改訂発行しました。すでに啓発用を含め約1,800部を頒布しています。(無料ダウンロード約3,000件) 今後もその普及に努めます。

(7) ドナー支援

ドナーサポートダイヤルを開設し、相談に応じます。

4. 骨髄バンク及び医療制度の充実

(1) 要望・請願活動

- ①患者の経済負担軽減及びドナー支援の充実を、国や関係機関に働きかけます。
- ②移植を受けた患者が、移植後も生活の質を保ち、長期フォローを受けることができるよう、また、地域で安心して暮らしを続けていくことができるよう、国や議員連盟、関係機関に働きかけます。

(2) 調査・研究・セミナー事業

- ①日本造血・免疫細胞療法学会へのポスター展示や演題提出を検討するとともに、理事が積極的に参加し、最新情報の収集と調査をおこない活動に活かします。
- ②関係機関との協力で、調査・研究やセミナーの開催、またはブロックセミナーなどを活用して学習の機会を設けます。

5. 提供しやすい環境整備

「ドナー休暇・公欠制度」「ドナー助成制度」の更なる普及

- ①各地の進捗を確認し、経済団体、自治体への働きかけを支援します。
- ②ドナー登録に至らなかった理由のアンケート調査を全国的におこない、その背景を数値化し、ドナー登録への障害となっている事項を把握し、関係団体と連携しながら障害の解消に取り組みます。

6. 全国協議会の体制強化、財政改善の活動

(1) 運動ネットワーク、会議体

- ①関係団体：骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟、厚生労働省 移植医療対策推進室、日本骨髄バンク、日本赤十字社との意見交換をおこない、患者支援のための提言を継続します。
- ②加盟団体、新規加盟団体及び協力団体と連携し、運動ネットワークを強化して活動の推進を図ります。
- ③理事会を年6回定例開催するとともに、必要に応じて臨時開催します。

(2) 全国協議会の組織強化・財政改善活動

- ①全国各地の未加盟団体に対し、全国協議会への加盟を働きかけ、組織の拡大を目指します。
- ②寄付募集、募金箱の設置、クラウドファンディングを更に推進し、遺贈寄付についても推進します。
- ③助成制度を研究し、申請できる団体を発掘し、財政の強化を図ります。

以 上